



教育における「寛容性」

校長

私は子どもの頃、なぜか人一倍正義感に燃えた子どもでした。幼い頃から親に「正しい行動をとりなさい。」と厳しくしつけられたわけではありません。むしろ私の親は、ほとんど私に「ああしろ」「こうしろ」とは言わない親でした。私の正義感がどうやって形成されたのかはさておき、正義感と聞くと、多くの方が「よいイメージ」を抱くのではないのでしょうか。もちろん、「正しいことを貫く力」は、生きていく上で大切な資質だと考えます。しかし、正義感を振りかざし過ぎると、様々な弊害が起きてしまうこともあります。

実は、幼い頃の私が抱いていた正義感は「正義は常に正しく、誤ったことをした人間は断罪されて然り」といった無慈悲で狭い考え方だったのです。そんな私が、考え方を転換する契機となった出来事があります。

私が高校生の時です。高校への自転車通学の最中、急に車道から右折してきた車に接触されました。私の自転車は転倒し、腕や足にかなりの擦過傷ができましたが、幸い、大事には至りませんでした。その夜、車の運転手が私の自宅に謝罪におとずれました。正義感に凝り固まり血気盛んな私は、その運転手に「おまえのせいだ。どうしてくれるんだ!」とばかりの勢いで文句を言い始めました。その時、私の親は「少し黙っていなさい。」と私を制し、ゆっくりと静かに話し始めたのです。冷静な口調で我が子の命の大切さや謝罪に來た運転手の誠意への感謝などを語っていたように思います。最終的に運転手は深々と頭を下げ、玄関先での会が終わりました。高校生の私はそれを横で見ている「ただ単に正義を振りかざすだけではダメなんだ」ということを実感し、それ以降の行動が少し変わりました。

さて、最近の「ネット叩き」（インターネット上で個人や集団が特定の人物を一方的に非難・誹謗中傷し攻撃する行為）を見ると、私はいつもあの高校生の時の私自身を思い出すのです。「ネット叩き」がエスカレートする要因には、インターネットという匿名性による心理的な障壁の低下など、様々な要因がかかわっていますが、その中には「自分の正義を振りかざし、相手を「悪」と断定し攻撃する心理」や「攻撃による優越感」も含まれています。正にこれは、あの時の私の心理ではないのでしょうか。

現代社会は、以前よりもコンプライアンスが厳しくなっていると言われています。それはもちろん、人権意識や規範意識が高くなったと評価できる側面もありますが、一方で、「寛容さが失われてきている」という見方もできるのではないのでしょうか。子どもたちの心身の安全・安心に関わるきまりの遵守やいじめの防止等について、学校は毅然とした態度で指導や支援を行わなければなりません。しかし場合に応じた「寛容さ」も持ち合わせていなければならないと思っています。知識や経験が乏しい子どもたちは、様々な失敗をするのが当たり前です。子どもたちの力を伸ばすためには、時として寛容的で、「あそびの部分」や「逃げ道」を用意しておくことも大切なのではないのでしょうか。前期終了にあたり「学校がきまり一辺倒の息苦しい場所になっていないか?」「みんなが行きたくなる学校であるか?」、改めて振り返り、後期のスタートを迎えたいと思っています。保護者・地域の皆様、引き続きよろしくお願い致します。

学校教育ビジョンで目指す3つの資質・能力
「可能性を伸ばす力」「尊重し合う力」「挑戦する力」について、
前期を振り返って、子どもたちが自分の成長を確かめました。
※終業式で発表してくれた児童の原稿を掲載します。

2年

ぼくが前きにがんばったことは、3つあります。

1つ目は体いくです。ジャンプをしてゴムをとびこえることが、はじめはじょうずにできなかったけど、がんばってれんしゅうしたら、高く、じょうずにとべるようになりました。

2つ目は図工です。絵をかくときに、アグリパークの牛を思いうかべてかいたら、うしのペロやはなや目がうまくかけました。

3つ目は自しゅ学しゅうです。算数のひっ算があんまりできなかったから、自学ノートにいっぱいひっ算を書いてれんしゅうしたら、さいきん、百のくらいまでのひっ算もすらすらできるようになりました。

これからも算数がすらすらできるようにがんばりたいです。(可能性・挑戦)



4年

私が前期で頑張ったことは運動会です。私は綱引きリーダーをやらせてもらいました。綱引きリーダーとして3年生と4年生を引っ張っていけるか心配でしたが、挑戦してみようと心の中で思って大きな声で白組行くぞと言えたので達成感があって嬉しかったです。また挑戦をできる機会があれば挑戦をしたいです。

後期で頑張りたいことはけやきこ祭りです。お店にいっぱい来てくれるようにしたいです。そのために楽しいお祭りにできるように頑張りたいです。(可能性・挑戦)



6年

私が前期に頑張ったことは、いろんなことに、積極的に挑戦したり、参加したりすることです。

私は、応援団や修学旅行、光のページの実行委員など、なれる、なれないに関わらず、自分の可能性を広げるために積極的に立候補しました。また、学年全体を実行委員としてまとめたり、分かりやすく説明するために考えたりすることが多かったので、授業でプレゼンテーションを作ったり、クラスの学級会議で司会をしたりすることも、得意になりました。

また、授業中にも、積極的に手を挙げるようにしました。何も発言しないで授業をきいていた時よりも、たくさん発言して、自分でもしっかり考えた方が、授業でやったことがきちんと頭に入っていると思います。

後期は、前期以上に積極的に、いろいろなことに挑戦して、卒業までを全力で走り切りたいと思います。(可能性・尊重・挑戦)



笹口小学校ブログ

毎日更新しています！

スマートフォンからパソコンからぜひご覧ください。

QRコード



URL <https://blog.city-niigata.ed.jp/keyaki-c/>